

女の子らしさという個性

笠岡市・笠岡高2年 洲本 夢叶

今の世界は、多様性が受け入れられる時代である。それは民族や文化に限らず、ジェンダー、性別についても同様だ。可愛いものが好きな男性、髪を短くする女性など、人にあつたいろいろな生き方が認められつつある。女の子なんだからおとなしくしなさい。男なんだから弱音を吐くな。性別に、ある種の役割を期待するようになった言葉は、多様性が受け入れられる過程で否定されるようになった。

私は小さいころ、プリキュアが大好きだった。可愛くて格好良くキラキラで、映画があるたびに親に映画館に連れて行ってもらった。敵と戦うプリキュアを、夢中で応援していた。いつごろからか、プリキュアのアニメを見ることはなくなってきたけれど、私の中でプリキュアは、強くて可愛い女の子だ。男の子のプリキュアが登場したというのは少しばかり衝撃的だったが、今の風潮を考えると、そうおかしくないことなのかもしれない。可愛くて格好良い女の子だけがプリキュアではなくて、可愛くて格好良い存在がプリキュアなのだろう。

近年、LGBTという言葉を聞く機会が増えたように思う。自分らしさを求めて、公表する人が増えたのかもしれない。性的マイノ

リティの人もそうでない人も、誰でも自分らしく自分の好きな生き方ができる社会。今必要なのは、そういった自分の個性を大切に生きていける社会だ。作品内でもジェンダー表現は配慮されているようだ。「女優」を「俳優」と言い換えたり、固定概念による「男の子だから」「女の子だから」というせりふが使われていなかったり。ただ、私が気になったのは「くだわ」といういわゆる女言葉を避けていることだった。確かに性別を意識する表現ではあるものの、俗にいう女の子らしさは個性として認められるものではないだろうか。女の子らしさと表現するのは、ジェンダー平等や性別に対する固定観念をなくそうとする世の中では褒められたものではないかもしれない。しかし、多様性を受け入れようとするあまり、従来の女の子らしさと呼ばれる性格や話し方すら受け入れられなくなっている気がする。

文化や民族の違ういろいろな人と会うことが増えた世の中だから、多様性を認めることは不可欠であり、平等が叫ばれることも当然だ。ただ、行き過ぎた平等は多様な差異を否定し、均一化をせまる行動である。

女兒向けアニメ「プリキュア」



「トロピカル〜ジュ!プリキュア」(©ABC・A・東映アニメーション)

「お母さんは私の担当なんだ。これは父と兄の3人家族でさ。瀬戸内海放送をテレビ朝日系で放送中の「トロピカル〜ジュ!プリキュア」で、主要キャラクターの一人を演じた主人公は驚いた顔で答えた。「お母さんお母さんが作るんだって思ってたかも。自分で作ってもいいんだ」

プリキュアは2004年に始まり、少女が変身しピンチやキツな体の体術を駆使して悪と戦う。当初掲げたコンセプトは「女の子でいっぱい溢れたい」だった。

制作元の東映アニメーションでシリーズの立ち上げに関わった執行員の鷲尾亮氏は「誰

ジェンダー表現じわり進化

女兒向けの人気アニメ「プリキュア」のジェンダー表現が進化している。「男の子のプリキュア」が登場したり、きりがない絵巻の中で「女優」と言い換えたり。「俳優」と言い換えることは多文化教育によって「マシになる」と話す。



「リリしく自分の足で立つことと、きれいでかわいいことは矛盾しない」と話す鷲尾亮さん



田中東子教授。「幼少期に見たものの影響は大きい」

女言葉使わず 多文化教育にプラス



辻愛沙子さん

かが助けられるストーリーではなく、りりしく自分の足で立つ作品を目指したと振り返る。「一貫して「男の子だから」「女の子だから」というせりふは使わず。近年は「くだわ」などのいわゆる女言葉も避けている。

一方、人気を維持するために女の子が憧れるきれいでかわい要素との両立も欠かせない。見せ場の変身シーンには手間と時間をかけ、戦闘では武器を使わず顔や髪は殴らないといったルールを守る工夫を続けている。

メディアのジェンダー表現に詳しい大妻女子大の田中東子教授によると、かつて、男の子中心だった子ども向け番組に変化が起き始めたのは平成期に入ってから。「美少女戦士セーラームーン」が人気となり、「仮面ライダー」シリーズも料理や家事が好きな主人公、同性の

その上で田中教授は、幼少期に受容するメディアの影響は大きいとして「プリキュア」のような人気作が、頼りないモデルを押しに縛られないモデルを示すことには意味があるだろうと話す。

初代プリキュアを見て育った世代は、現在20代に成長した。起業し、ジェンダーキャップなどの社会問題に取り組み1995年生まれのクリエイティブディレクター辻愛沙子さんは「生き方に影響を受けた特別な作品」と語る。力強く踏み込み、歯を食いしばって戦った主人公の姿を今も覚えているという「女の子が強くていいんだ」という当たり前のことを教えられました。

2021年8月20日付 山陽新聞 (記事上部写真) ©ABC・A・東映アニメーション